

できるだけ所属企業がバラバラになるように3
つにわかれてお座りください
4～5名／グループです

みらいのまちを考えるワークショップ キックオフミーティング

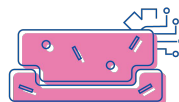
Miro board link:

<https://miro.com/app/board/uXjVGfUBn6Q=/> Password: sangaku1208

<https://zoom.us/join/edl?muid=7f15f179-8e52-4ca7-8007-9ba3e9c718cd>

ミーティング ID: 954 8344 1100

パスコード: vD9N6U



みらいリビングラボ

始める前に

できるだけ所属企業がバラバラになるように3つにわかれてお座りください
4~5名/グループです

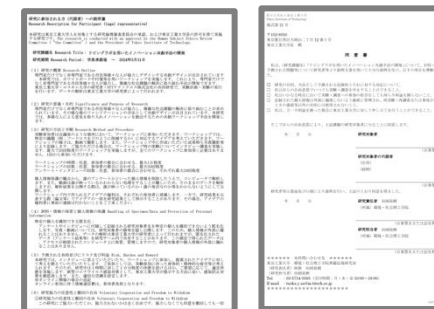
- 机の上の研究説明書に目を通し署名ください
- 名札(あなたらしい絵を挿絵に)を作成してください
- 机上のアンケートにご回答ください
- アンケートは記名式ですが、個人を特定して解析することはありません
- 本写真を宣伝のためウェブサイト等に掲載する可能性があります
掲載を希望しない場合はお声掛けください
- 自由に撮影いただいて構いませんが、他の参加者の顔が映らないように配慮してください
(映る場合は本人の同意を撮ってください)
- みらいリビングラボのウェブサイト、随時開催報告を載せたていきたいと考えています。企業名の掲載可否について相談させていただきます

名札



顔でも
なんでも

説明書
・
同意書



アンケート

A survey form with a yellow border. It contains two main sections: "2030年の未来の食はどのようになりますか?" (How do you think the food of the future in 2030 will be?) and "2030年わたしの状況" (My situation in 2030).

メンバーの紹介

運営メンバー



助教
田岡 祐樹



助教
岸本 まき



助教
市毛 博之



准教授
中谷 桃子



研究員
宇津木 希



研究員
藤巻 汐梨



研究員
布施 瑛水

はじめに

- 多様な参加者の方がいます
- いろいろな人との出会いや多様な意見を楽しみましょう
- わからないときはどんどん聞きましょう
- 一つの付箋に一つのアイデアを書きましょう
- 「いいね. それに加えて」 ”Yes, and...”の気持ちを大切に
- 机の上のものは自由に使ってください

いいね.
それに加
えて

本日の目的

まずは、幅広のテーマ設定になっています

今後の活動に向けて、参加者のみなさんが「検討してみたいこと」を

探索することを目的とします

これまでの活動と 活動イメージ

Plural City：多様なアクターが共に自分らしく生きるまちのデザイン — 2050年の「ありたいくらし」のシナリオを共創する —

- 背景
 - 多次元世界（Pluriverse）や脱人間中心（More-Than-Human）が注目され、人・もの・自然など多様な主体を支える新たなまちへの変革が求められている。
 - 多様な人々の議論の場としてのリビングラボ（Living Lab）が注目され、企業におけるビジネスの種やエンドユーザーとの新たな接点が生み出されている。
 - 急速な社会変化（自動運転やロボット技術、AI技術の普及、環境変動）を背景に、人々が未来社会の課題を「自分ごと」として捉え、ありたい未来像を具体化するとともに、自身の行動も変容することが必要である。
- シナリオ創出時のゴール（案）
 - **2050年に、多様なアクターが自分らしく生き生きと暮らせるまち**
- 活動イメージ
 - 年3～4回、各回3時間程度のワークショップを実施。
 - 学生を含む多様な参加者に開かれた場として運営する。
 ※1企業からの参加者は、原則としてプログラム参加企業所属に限る。
 ※2企業の方が関心のある/利用したい技術を（希望される場合は）持ち込むことも可能。
- 期待される成果
 - 複数の未来シナリオと、そこに暮らす人々の生活イメージを可視化。
 - 多様なステークホルダーとの共創により、ユーザー視点・未来視点に立脚した最新のサービスデザイン方法論に基づく発想プロセスの体験。
 - 学術成果（論文）：社会課題を自分ごととして、自社の事業や地域の課題と結びつけて考え、発想を促す共創支援手法。デザインプロセスの民主化を通じて、多様な人々が生涯にわたり創造的に貢献できる手法の開発。リビングラボの方法論の開発。
- 研究テーマ（案）
 - 社会課題を自分ごととして捉え、発想を支援する手法の開発。
 - デザインプロセスの民主化を通じて、個人の「貢献寿命」を伸ばす手法の開発。
- 参加教員: 田岡 祐樹（デザイン学）、岸本 まき（建築学）、市毛 博之（総合診療学）

1. 多次元世界 (Pluriverse) や脱人間中心 (More-Than-Human) が注目され、
人・もの・自然など多様な主体を支える新たなまちへの変革が求められている。
2. 多様な人々の議論の場としてのリビングラボ (Living Lab)が注目され、
企業におけるビジネスの種やエンドユーザーとの新たな接点が生まれている。
3. 急速な社会変化 (自動運転やロボット技術、AI技術の普及、環境変動) を背景に、人々が未来社会の課題を「自分ごと」として捉え、ありたい未来像を具体化するとともに、自身の行動も変容することが必要である。

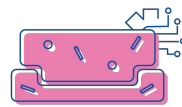
リビングラボとは

1. 「リビングラボ」とは、生活に近い場(リビング)で
生活者(市民、ユーザ)を含む多様なステークホルダと共に
課題や価値を探索しながら(ラボ)サービスを生み出す 仕組み

2. 4つの原則 [Living Lab Laboratory Japan 2025]

- (1) **リビング** : クローズドな実験室やスタジオだけではなく、実生活の場や社会の中で、社会課題解決や未来創造のための活動
- (2) **ラボ** : 出来る限り早い段階から、プロトタイプをつくり、それを社会・生活の場で試しながら具体化・実現。技術や製品、サービスだけでなく、地域における活動や社会システムなど、非常に広範
- (3) **共創** : 生活者(市民、ユーザ)、企業、行政(地方自治体)、研究機関など、多様なステークホルダが、課題解決や価値創造に向けて共創。
- (4) **エンゲージメント** : 生活者が、長期的に関与・参加する活動。生活者を、単発的なワークショップや実験の参加者ではなく、様々なタイミングでプロジェクトに関与する「パートナー」と位置付け

みらいリビングラボ概要



みらいリビングラボ

- 多様な関係者が創造性を発揮し、未来社会を自分ごととして具現化 する場として共創活動・研究活動を行う。
- 社会のさまざまな人の共創活動への参加を可能とし、社会を一步ずつ変えていくための仕組み・方法論を研究 する。
- 社会課題を一人ひとりが自分ごと化し、ありたい未来に向けた行動をとることを促す方法論として、ワークショッププログラムやツールを開発する。



研究者 専門家



企業



行政



生活者



学生



みらいリビングラボ



未来社会を実現する製
品・サービス



課題解決を実装する
多様な人によるチーム



未来社会を支える
技術の循環

これまでの活動

■みらいを考えるワークショップ

未来の食、働き方、子育てなど様々な未来について多様な参加者と検討している。



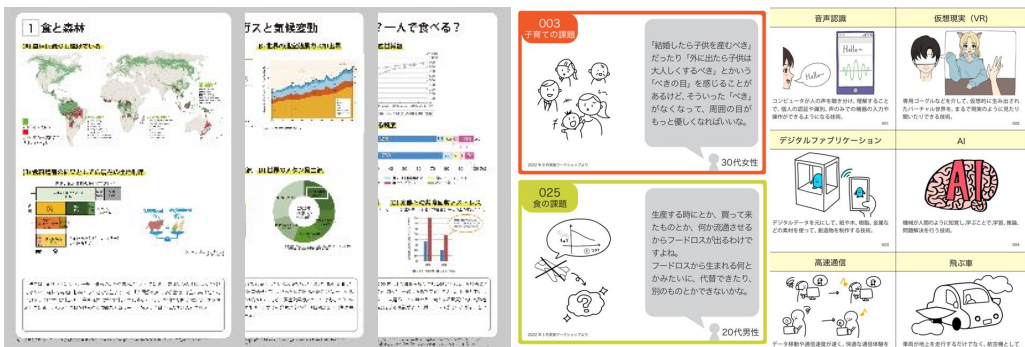
■大阪・関西万博などイベントでの展示

大阪・関西万博などのイベントにおいて未来の生活を感じられる体験型の展示を実施している。



■ワークショップツールの開発

ワークショップで活用できるツールをウェブサイトにて公開している。



■大学祭での展示

大学祭において、未来の社会を感じられるような展示や体験を実施している。



これまでの活動

■みらいを考えるワークショップ

未来の食、働き方、子育てなど様々な未来について多様な参加者と検討している。



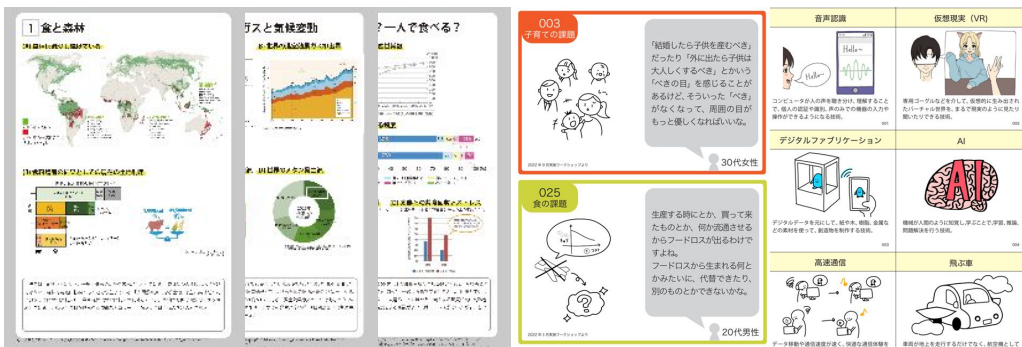
■大阪・関西万博などイベントでの展示

大阪・関西万博などのイベントにおいて未来の生活を感じられる体験型の展示を実施している。



■ワークショップツールの開発

ワークショップで活用できるツールをウェブサイトにて公開している。



■大学祭での展示

大学祭において、未来の社会を感じられるような展示や体験を実施している。



ワークショップの事例

第1回 ありたい未来の食を検討

使ったもの

- ・統計データ
- ・デンマークの人の動画

動画・統計データから社会を知る

2030年の食についての意見を聞いてみる

共有

グループで2030年の未来について考える

発表

第2回 テーマを具体化しアイデアを考える

使ったもの

- ・参加者が撮ってきた写真
- ・day1でできたテーマ

撮ってきた写真から食を振り返る

day1のそれぞれのテーマを具体化

2030年の未来を実現するアイデアを考える

アイデアを具体化するための情報を考える

発表

第3回 アイデアを具体化する

使ったもの

- ・前回までにできたテーマ
- ・day2のアイデア
- ・参加者が取得したセ

前回までの振り返り

データから食を振り返る

取得したデータや前回出たアイデアからアイデアを具体化

発表

第4回 私たちにできるアクションを検討

使ったもの

- ・これまでにできたテーマ
- ・これまでにできたアイデア

前回までの振り返り

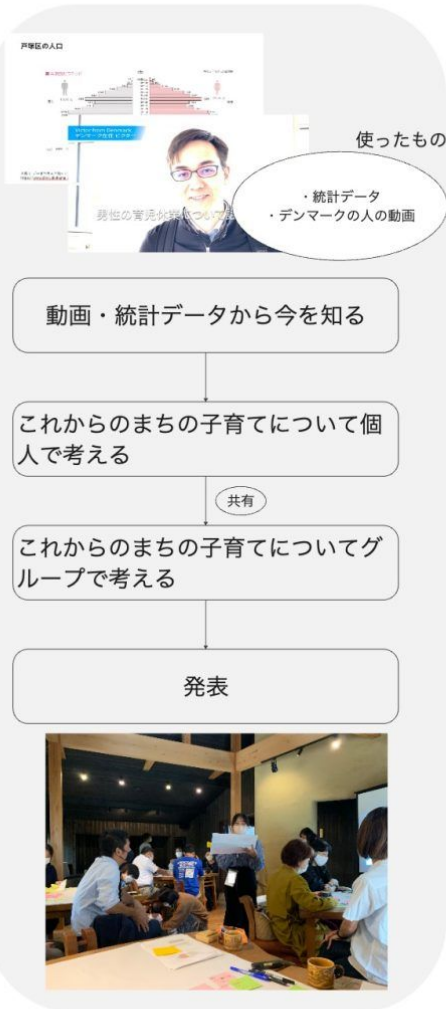
ワールドカフェ形式でアイデアと具体化する

それぞれが一番興味を持ったテーマのブラッシュアップ

発表

ワークショップの事例

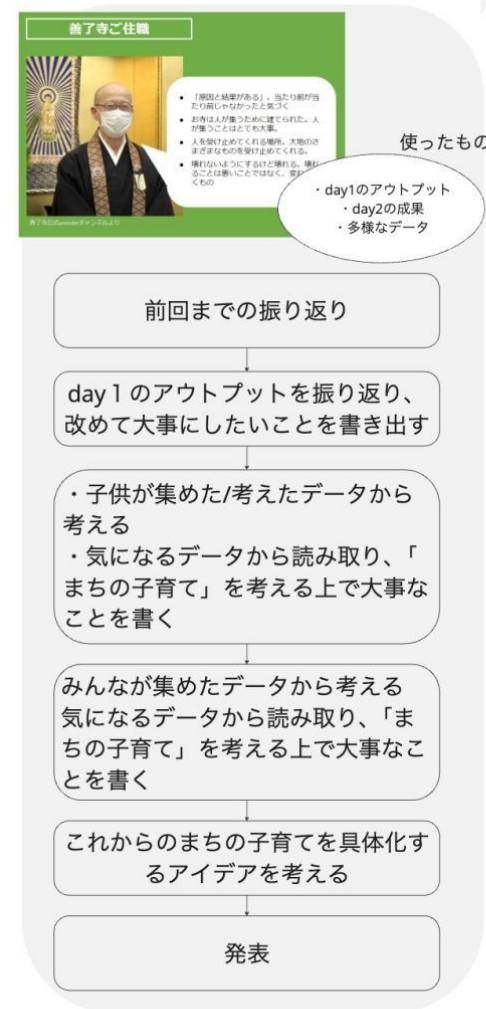
第1回 まちのありたい未来を検討



第1.5回 子供向けWS 街歩きをしつつ、データ集め、 まちの未来を考える



第2回 アイデアを検討



第4回 アイデアをアクションへ これまでの議論をもとに 私たちにできるアクションを検討



未来の働き方を考えよう



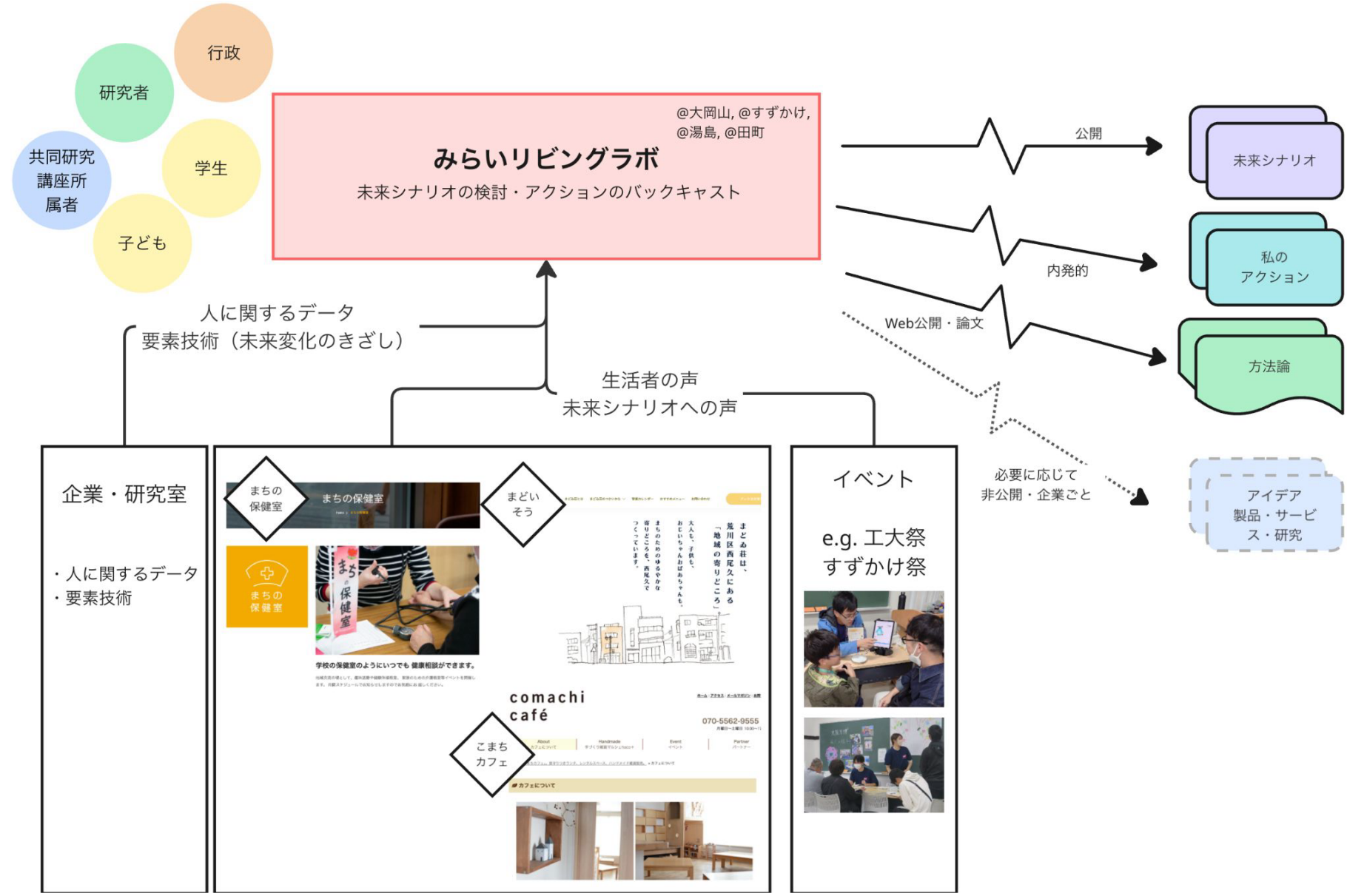
広く思索する取り組み

大岡山・すすかけ台の大学祭にて展示・ワークショップ
 毎回、数百名の方が来場



TLC200 PRO 2024/11/04 15:15:48

今回の枠組み



活動内容のイメージ

1. ワークショップ

- 学生を含む多様な参加者に開かれた場として運営
- 様々な視点から議論を深める
- 議論は対面のみ。
- アンケート・インタビューのご協力をお願いすることがあります

2. 開かれた検討

- 展示などを通じて、様々な方からの意見を集める

3. その他

- デザイン思考などのワークショップ
- メタバース上でのワークショップ
- シナリオに関わるPOCの実証も？

※1 企業からの参加者は、原則として共同研究講座所属者に限る。

※2 メンバー企業の方が関心のある/利用したい技術を(希望される場合は)持ち込むことも可能。

スケジュール感のイメージ

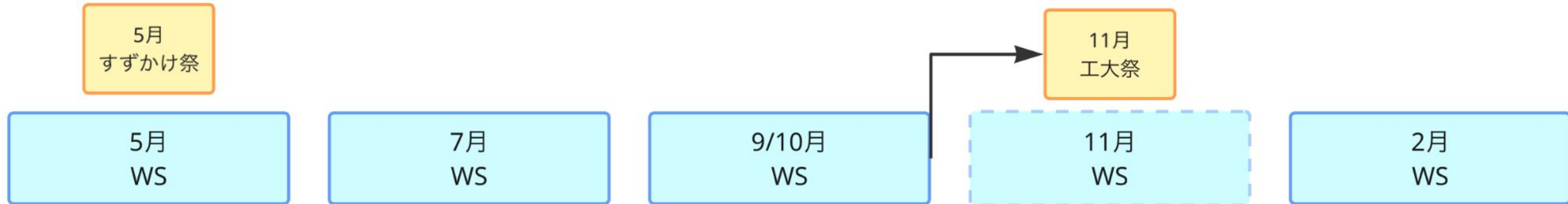
年3~4回、各回3時間程度のワークショップを実施。

1. 2025年度

- 2026年2月 (16~27日のどこか)

2. 2026 / 2027 年度

- 5/6月、7/8月、9/10月、(11月)、2月



自己紹介

- **1人あたり2分でワークシートに書き出してください**
 - 名前
 - 部署・事業内容
 - テーマを選んだ私の期待:内容、頻度、、
 - テーマを選んだ会社の期待
- **1人あたり3分で順番に自己紹介しましょう**

名前	<input type="text"/>	所属	<input type="text"/>
部署の役割			
<input type="text"/>			
私の期待			
<input type="text"/>			
会社の期待			
<input type="text"/>			


自己紹介:自分のウェルビーイングに大切なことを 3つ選ぶ



- カード一覧を見ながら、しっくりくるもの 3つに○をつけましょう
 - 「どんな時に幸せを感じる?」「日々の生活で大事にしていることは?」と質問を変えてもいいです
- 自分が選んだ3枚のカードについて、なぜそれを選びましたか? その理由やきっかけとなるエピソードを振り返ります
 - 可能な範囲で、付箋で理由を追記



自己紹介:考えた理由やエピソードをチーム内で共有する

 12 min

- 自分が選んだカード3枚を手もとに並べ, その理由やエピソードをチームメンバーと共有しましょう
- 同じカードを選んだ場合は, カードを共有してください
- 一人ずつ2分で話します
- 聞く人は, 話す人がどのような価値観を持っているか否定せずに耳を傾けましょう
- 話終わったら拍手を送りましょう



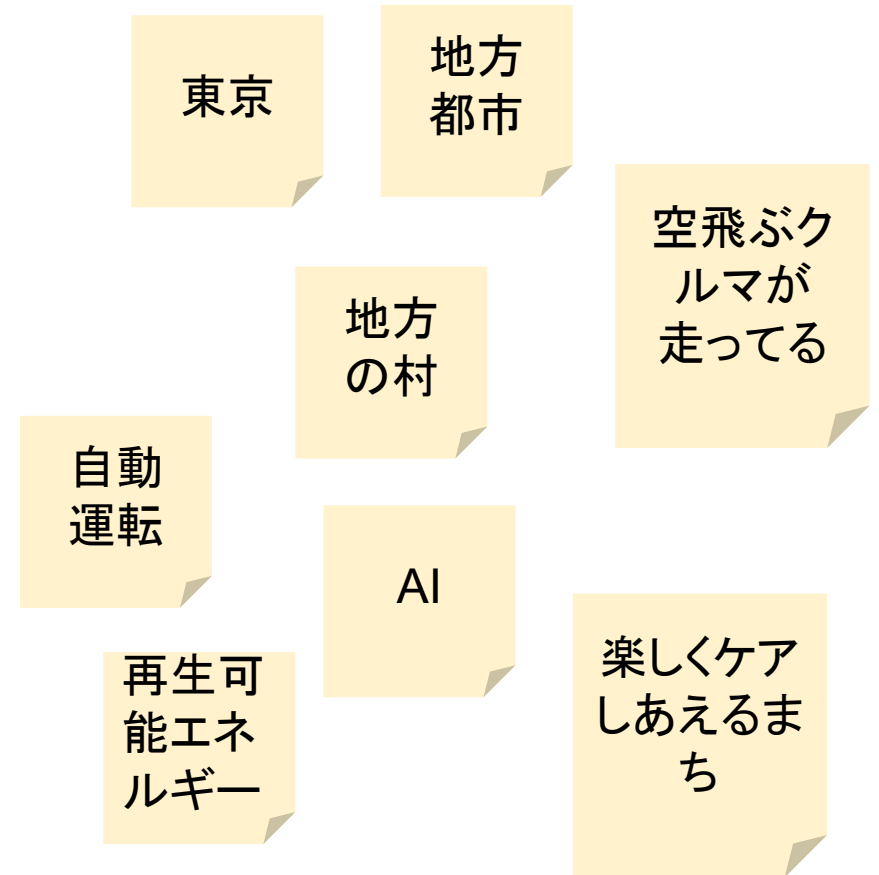
休憩
~ 14:45



**2050年に多様なアクターが
自分らしく生き生きと
暮らせるまち**

1. **個人・グループで発想**
2. **ツールを用いた発想**
3. **「検討してみたいこと」の洗い出し**

- 「2050年のみらいのまち」でイメージし、キーワードやまちの姿を個人でリストアップしましょう
 - 「やってみたい」「気になる」「考えてみたい」「こんなまちに住みたい」
 - 会社からこんなことを期待されている...というまちの姿、制約条件を盛り込んでもOK
 - 粒度は荒くてOK



テーブル内で共有



書き出した付箋を見せながら共有してください
共感したり、さらに広げたりしましょう
「おもしろい！」
「こんな事もできたら良いかも！」

地方の
村

自動運転のおかげで
人が散在する村

自動
運転

好きな場所で最後の時
間を過ごせるまち

終末
医療

残された犬が
幸せにくらせるまち

楽しくケア
しあえるま
ち

発想を強制的に広げましょう

 7 min

- カードを引いて、既存の付箋に強制的に
掛け合わせて、発想を広げてみましょう
 - ペルソナカード
 - 技術カード
- カードはあくまで刺激なので、イメージが
想像できれば、正しく理解できなくてもOK
- どうしてもイメージがわからないカードを
引いてしまったら交換してもかまいません

未来社会に住んでそうな方

これから社会に普及すると予測される技術



勉強も遊びも！

やりたいことだらけなのが悩み！ 17歳女性



住居：宮城県石巻市在住、引っ越し経験なし
家族：40代の両親と中学生の弟、4人家族
学業：市内の女子高に自転車で通学
放課後は週2で塾、週3で部活がある

悩み：受験生になる前に遊びたいけど、忙しくて
趣味や遊びの時間が全然取れない。
買い物や推し活のために東京に行ってみ
たいな。でも、勉強もしなきゃ！

01

- どのあたりに関心がありますか？
 - 気になるものに付箋を貼ってください
 - 理由を付箋に書いてください
 - 3つ以上貼ってください
- 他のチームを見に行っても構いません

このトピックは
とても個人的に興味がある

(田岡)

会社で〇〇技術
に期待が集まっているので是非
やりたい
(鈴木)

発表

発表順

1. Team 1
2. Team 2
3. Team 3
4. Team 4 (オンライン)



1分程度でお願いします

今日の学びを共有しましょう

- **今日のワークショップから得られたことをチームメンバと話しましょう**
- **1名1分程度で話していきましょう**

まとめ

アンケート・インタビュー



分

最初の自己紹介ワークシートに、赤字で追記をお願いします

また裏面に追加の質問項目があります(空欄 OKです)